

2023年12月10日

礼 拜

聖書

ルカ1章67～79節

1:67 さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。

1:68 「ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、

1:69 救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。

1:70 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。

1:71 この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである。

1:72 主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。

1:73 私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。

1:74 主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてくださる。

1:75 私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく。

1:76 幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、

1:77 罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識
を与えるからである。

1:78 これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに
訪れ、

1:79 暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私
たちの足を平和の道に導く。」

説教

「罪の赦しによる救い。」

今日はアドベントのろうそく、アドベントクランツが二本
点灯いたしました。

アドベントはクリスマスを待ち望む4週間です。
神様が救い主を送って下さった、この重大な意味を
良く知るための備えの週です。

今日は洗礼式が行われました。
洗礼の喜びとクリスマスの喜びを
たっぷりを味わいたいと思います。

神様は時が満ちて救い主イエス様をこの世に送って
下さいました。

マラキという預言者が救い主が来られる前に
救い主の到来の前触れをする人物、エリヤの様な預
言者を送ることを

BC400年頃に預言しています。

星が輝いて、自然を通して、聖書を通して
救い主の到来が予告されています。

星の輝きを見て、遠く東の異国人の博士たちは
これは救い主のお生まれに違いないと、
星を頼りにはるばる長い旅をしてエルサレムまでやっ
て来て、律法学者に聖書を教えられ、
ベツレヘムの馬小屋に救い主を見いだし、
黄金、乳香、没薬などの宝物を献げてここから救
い主を礼拝しました。

星の輝きとは別に

天使が現れその光りで夜空がまぶしく輝きました。

この輝きを見た野原の羊飼いたちは

天使たちのコーラスを聴き、

「、ダビデの町に救い主がお生まれにまりました。この方こそ主、キリストです」と言う天使のおつげに真夜中、天使のコーラスに導かれて馬小屋の飼葉桶に眠っているイエス様を捜し当てて、真心からの礼拝を献げました。

イエス様を礼拝に行ったのは博士たちと野にいた羊飼
いたちだけでした。

ユダヤの聖書を良く知っているはずの学者たちや、宮
で仕えている祭司たちは誰一人何の反応もしていま
せん。

聖書に生まれる場所はユダヤのベツレヘムと知ってい
ても、星の出現に遭遇していても、羊飼いの見た夜
空の光りを見ても

イエス様を拝みに行っていません。

ヘロデ王に至っては、
新しい王様、メシヤがお生まれと聞いて、
自分の地位が脅かされる不安を覚えて、
ベツレヘムの2歳以下の幼子を残らず殺せと命じてい
ます。

2000年前の本当のクリスマス、イエス様がお生まれになったとき、星の輝き、天使のコーラスがあったにもかかわらず、近くの人々は救い主のお生まれを無視する生活をしていました。

そんな事を考えて、クリスマスの前の4週間をアドベント、待ち望む時、心の備えをしていきましょう、とローソクの灯を輝かせ、ツリーにも星が輝いて、救い主を忘れない様に語っています。

救い主の喜びの現われとは逆ですが、
台風が接近している時、地震が起こり、津波の可能性の
あるとき、線上降水帯が発生している時、
気象庁はテレビや色々な手段で生活を守るために警告を
出します。繰り返し繰り返し警告します。
神様は様々な方法で告知し、予告し、警告をしています。
主は語り続けています。今日もいろいろな方法で語って
くださいます。心を澄ませて聞きましょう。主の訪れ、語り
かけを無視する事のないように目を覚ましましょう。

ルカ福音書の最初に登場する祭司ゼカリヤも祭司職と言う身分であり、祭司の職務で神殿で香を献げる奉仕を行っているときでありながら神様のお告げを聞き取る事の出来なかった残念ないきさつからルカは救い主の物語を語り始めています。

ゼカリヤは祭司職に就いていました。神様のことを最もよく知っていなければならない身分の人でした。ゼカリヤの名前の意味は「主は覚えておられる」という意味です。

主は私たちを知っていてくださる、覚えていてくださるということを知って、意識して、主を覚えて、行動をする、生きて行くことが大切です。問題の中でも、主は覚えていてくださる事を知って信じて、恐れずに生きて行くことが可能になります。

ゼカリヤは神殿に入って、民を代表して礼拝して、
祈り、香を献げる役割の当番になりました。
今日私たちは礼拝しています。司会者や、奏楽者は
皆様より少し緊張して奉仕をしておられると思います。
牧師も緊張だけでなく、よく祈って準備して望まなければ
なりません。

ゼカリヤが神殿に入りました。多くの祭司たちは神殿の外
で奉仕者のために祈っていました。

このような霊的な奉仕の真っ最中、クライマックスに天使
がゼカリヤに現れました。恐れるな、と語りかけました。その
時ゼカリヤはパニックになり、取り乱し、恐怖に襲われまし
た。

ここでパニックになり信仰に立って生きることが出来なくなっ
てしまいました。

次に語る天使のことばを信仰で聞くゆとりを失ってしまいま
した。

「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。」

ゼカリヤは長年、主よ、子どもを与えてください、と祈っていましたが、若い頃は真剣に主を信じて祈っていましたが、年を取るにつれ、真剣さが乏しくなり、祈りは形式的になり、惰性、口先だけの不信仰なつぶやきになっていました。

それで天使の赤ちゃんが生まれます、と言うことばを聞いても信じる事が出来ません。

私たちは高齡です。どこに証拠がありますか。もう高齡になっています。子どもはもう生まれない証拠はあります。

全く不信仰な返答をしています。

神様から出たことば、約束と信じていません。

人間的には常識的な返答でも神の前には不信仰な返答。全能の神様を信じない不信仰な応答、ゼカリヤの信仰。

ゼカリヤはこの不信仰の応答の結果、
約10ヶ月、エリサベツが出産して、
8日目に割礼を施し名前をつける時まで
口がきけない不自由な生活をしました。

エリサベツは子どもの名前はヨハネとしなければなりませんと言いました。口のきけないゼカリヤは石の板に「ヨハネ」と書きました。ヨハネと命名したときにゼカリヤの口が開かれ、舌が解かれ、ものが言える様になって神様を賛美しました。

何故ゼカリヤでなくヨハネなののでしょうか。
全能の神様を信じ、主は覚えておられると言う立派な名前を持っていますが、エリサベツが妊娠して子を産むという神様のお告げを信じる事が出来なかった。この沈黙を余儀なくされたゼカリヤは反省の毎日、悔い改めの毎日を10ヶ月送っていました。

主は私たちを覚えていてくださっても、私たちは全能の主をこころから、本音で、真剣に信じていない、口先だけの信仰、偽善者の様な信仰を悔い改めの10ヶ月でした。主は覚えていてくださると言う信仰さえ消えている私たちは、ただただ主のあわれみ、いつくしみ、恵みによるほかない、「ヨハネ」と赤ちゃんに名前をつける他ないと二人は導かれていました。

口が解放されて話せる様になったゼカリヤはまず第一に主を賛美しています。

「ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、

1:69 救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。

幼子ヨハネは成長して

荒野で悔い改めを叫び、バプテスマ授ける

バプテスマのヨハネに成長して行きました。

バプテスマのヨハネの人生は大変波乱に富んだ生涯でしたが、徹底して主に委ねる、主の恵みに生きる生涯でした。

ヨハネに多くの弟子が着いて行きました。
イエス様はヨハネから洗礼を受けられると聖霊がハ
トの様に下りました。

その時から多くのヨハネの弟子はヨハネを離れ、
イエス様について行きました。

その時ヨハネは

自分は衰え、あの方は盛んにならなければならない、
と語り徹底的に自分ではなく主の恵みに生きていま
した。

ヘロデ王が弟ピリポの妻、ヘロデヤを弟から奪い取って自分の妻とした時も、
ヘロデ王に向かって、
あなたのしていることは神様の律法に逆らう違反する
事です、と公衆の面前で王をとがめました。

それに立腹激怒したヘロデ王は殺したかったが、民衆はヨハネを預言者と尊敬していたので、ヨハネを殺すと国中に暴動が起こる事を恐れて牢に入れておきました。

ヘロデは自分でヨハネを牢に入れておきながら、困ったときは牢のヨハネに助言をいただくようにしていました。

釈放すれば良いのに、娶ったヘロデヤが怒りに燃えていたから出来なかったのでしょうか。

ヘロデの誕生祝いの席、ヘロデヤの娘が皆の前で踊った。満足したヘロデ王は欲しいものは何でも差し上げよう、と言った時、娘は母ヘロデヤに相談した。ヘロデヤは即、ヨハネの首を切ってお盆に載せてください。

ヘロデはしたくなかったが、公衆の面前で行ったことゆえ、兵士を使わして、血まみれのお盆にのったヨハネの首を娘のところに持ってきました。

このような波乱に富んだ人生のヨハネ、主の恵みに
徹底して生きた人でありました。

弟子たちがイエス様の方に移っても、
心を痛めることなく、主をあがめて生き、
牢獄に入れられても、そこでも相談に来るヘロデに教
えを説いています。

首をはねられる時も、徹底して、主イエス様の先駆
けをする使命に生きて、十字架で死なれるイエス様
の先駆けを立派に果たしました。

ヨハネ、主の恵みによって生きる。
すべてのものは恵みによって主から与えられている、
主が私たちに預けている。
必要なら他の人に分け与え、自分の命も主のため
にささげきっているヨハネ。
まさに主に任せて、主の恵みに生きた人でした。

主が覚えていてくださる事さえ、忘れる様なものも
慈しんで愛してくださるイエス様。
無限に赦してくださる主に拠り頼んで歩みましょう。

今日は洗礼式が行われました。

イエス様を信じるだけで、すべての罪を赦し、

神の子として歩まさせていただきます。

失敗しても、落ち度があっても、偽善的になっても、
主は赦してくださる恵みふかい主、こころから信じ、信頼し
て歩みましょう。

祈り。